

令和3年度事業について

I 啓発活動の概要

少子・高齢化、国際化、情報化の急速な進展、人々の価値観や生き方の多様化などに伴い、人権課題もますます多岐にわたり、複雑化しています。インターネットによる人権侵害、職場や学校でのいじめ等の課題に加え、外国人や性的少数者の人権、さらに最近では、新型コロナウイルスの感染者やその家族、医療従事者等に対する誹謗中傷や差別的な扱いなど、様々な人権問題が後を絶ちません。

「人権に関する県民意識調査(平成30年度)」の結果をみると、人権に関して、知識としての理解は県民に広まりつつあるものの、年代等により人権意識に差があり、また自身の問題として理解し、行動に結びつけているかという点では、いまだ十分とは言えない傾向がうかがわれます。

そのため、令和3年度は、私たち一人ひとりがお互いの人権の尊重を感性として育み、日常生活の中で人権尊重が自然に態度や行動として表れるよう、創意工夫をこらした啓発活動を推進することが重要と考え、県内各市町、人権関係諸団体はもとより県民の参画と協働のもと、「兵庫県人権教育及び啓発に関する総合推進指針」に基づき、「ひろげよう こころのネットワーク」をスローガンに、「人権文化をすすめる県民運動」を推進し、①人権に関する理解や認識を深める人権啓発を進める、②人権を身近に感じ、一人ひとりの感性に訴える人権啓発を進める、の2点を活動の重点とした人権啓発事業を積極的に展開しました。

II 公益目的事業

1 研修事業

(1) 県職員研修の実施

県職員を対象とした職階別研修(幹部職員、推進員・監督職員等)を実施した。

・実施回数2回(一部オンライン開催)

区分	研修会	R3 参加人数	R2 参加人数
県	幹部職員研修(12月2日～12月23日)	325人	225人
	人権研修推進員及び監督職員合同研修 (7月26日～9月2日、 10月18日～10月29日)	1,029人	977人
	合計	1,354人	1,202人

(2) 市町職員研修の実施

市町の人権啓発担当者を対象とした研修を実施した。

・実施回数:3回(第1回及び第3回オンライン開催・第2回ハイブリット開催)

回	R3 (実施期間) 参加人数	R2参加人数
第1回	(6月28日～7月30日) 156人	151人
第2回	(12月2日～12月10日) 55人	70人
第3回	(2月2日) 75人	127人
合計	286人	348人

(3) 企業人権啓発研修の実施

企業の経営者・人権担当者等を対象とした研修を実施した。

・実施回数:2回(一部オンライン開催)

R3 開催回数	R3 参加人数	R2 開催回数	R2 参加人数
2回	137人	1回	44人

(4) 講師派遣

① 特定職種従事者研修への講師派遣

教職員、警察職員、消防職員、医療・保健関係従事者、福祉関係従事者など、高い人権意識を身につける必要のある職種を対象とした研修に講師を派遣した。

R3 開催回数	R3 参加人数	R2 開催回数	R2 参加人数
12回	655人	8回	391人

② 住民研修や企業研修等への講師派遣及び紹介

市町や企業、団体等の依頼に応じ、講師の派遣及び紹介を行った。

R3 開催回数	R3 参加人数	R2 開催回数	R2 参加人数
72回	4,871人	40回	2,459人

(5) インターネット・モニタリング事業の実施

インターネットでの差別を助長するような悪質な書き込みのモニタリングを実施するとともに、市町職員研修を実施した。

・実施回数:2回(第1回、第2回オンライン開催)

回	R3 (実施期間) 参加人数	R2 参加人数
第1回	(6月28日～7月30日) 156人	151人
第2回	(2月2日) 75人	127人
合計	231人	278人

2 啓発事業

(1) 「ひょうご・ヒューマンフェスティバル 2021 in にしわき」の開催

「人権文化をすすめる県民運動」を推進するために、推進強調月間である 8 月に人権啓発フェスティバルを開催した。令和3年度は西脇市において、副島 淳氏による講演会やキャラクターショー等を実施した。

- ① 開催期日 令和3年8月9日(土)
- ② 開催場所 西脇市市民交流施設「オリナス」
- ③ 参加者 約 1,500 人
- ④ 内容
 - ・人権講演会「違いは武器に」
副島 淳 (俳優・タレント)
 - ・オープニングミニライブ、障害者スポーツ体験、ヒューマンシネマ、人権啓発パネル展、子ども多文化共生イベントなど

(2) 「人権のつどい」の開催

毎年「人権週間の意義」を広く県民に周知し、人権意識の普及・啓発を図るために「人権のつどい」を開催している。令和3年度は、のじぎく文芸賞表彰式、ハートフル人権ミニコンサート、人権講演会を実施した。

- ① 開催期日 令和3年 12 月 2 日(木)
- ② 開催場所 兵庫県公館大会議室
- ③ 参加者 193 人 ※オンライン視聴総再生回数約 1,600 回
- ④ 内容
 - ・開会行事及びのじぎく文芸賞表彰式
 - ・ハートフル人権ミニコンサート
山中 歩夢 (ピアノ)、堀江 恵太 (ヴァイオリン)
大槻 桃子 (ヴィオラ)、細谷 公三香(チェロ)
 - ・人権講演会
テーマ「SDGS と人権～誰も取り残されない社会の実現のために～」
講師 平田 オリザ
(兵庫県公立大学法人芸術文化観光専門職大学学長)

(3) 人権総合情報誌「ひょうご人権ジャーナルきずな」の発行

人権に関するさまざまな問題や課題について、専門家等の寄稿や県内各地におけるさまざまな実践活動の取材、「ふれあいサロン」コーナーへの読者感想の掲載等により、県民との双方向性を持たせた情報誌として、ひょうご人権ジャーナル「きずな」を発行・配布し、タイムリーな情報を県民に提供した。

- ① 発行回数等 年 12 回(月刊) 毎回 28,000 部
- ② 構成 8ページ
- ③ 主な配布先 市町人権担当部局、県社会福祉協議会等の人権ネットワーク関係機関・団体、公共施設、銀行、郵便局、理容・美容室等

(4) 「人権啓発ビデオ」の企画・制作

様々な人権課題を映像で提示し、人々の感性に訴えかけることにより、豊かな人権意識を身につけることを目的に、各種の人権研修会や学習会等での教材となる人権啓発ビデオ「夕焼け」(テーマ:ケアラー～だれもが人権尊重される社会を～)を企画・制作した。

(5) 「人権啓発ビデオ」活用ガイドの作成

人権が尊重される地域づくりに向けて、市町住民研修や職場研修等で、ビデオ『夕焼け』を有効に活用できるように、活用ガイドを作成し(5,000部)、ビデオを購入した市町や企業に対して、また研修会等において配布した。

(6) 人権啓発映像資料の企画・制作

兵庫県拉致問題啓発ビデオ「私たちにできることー拉致問題の解決を願ってー」(42分)
(公財)兵庫県人権啓発協会 You Tube チャンネルで公開中

兵庫県関係者の有本恵子さんをはじめとする拉致被害者等の一刻も早い帰国の実現に向け、県民の関心と認識を深めるため制作した。若年層に関心を持ってもらえるよう兵庫県立東播磨高等学校と協力して撮影した。

(7) 広報媒体等を活用した啓発

① 新聞広告

ア 「人権文化をすすめる県民運動」の告知(令和3年8月1日)

神戸新聞朝刊 1/3 ページ(全5段)カラー刷

イ 「人権週間」の広報(令和3年12月4日)

神戸新聞朝刊 1/3 ページ(全5段)カラー刷

② 地域情報誌による広告

地域総合情報誌「ぱ・せ・り」(全5段、カラー刷り)に「ひょうご・ヒューマンフェスティバル 2021 in にしわき」の告知を掲載した。

③ ラジオ放送(スポット広告)

人権に関する県内各地のさまざまな実践活動等を取り上げるラジオ番組においてスポット広告を行った。

ア 放送局 ラジオ関西 毎週火曜日「谷五郎の笑って暮らそう」番組内

イ 放送内容 「人権文化をすすめる県民運動」の周知を図るスポット広告放送

④ ホームページ

各種の人権に関する情報[法務省、(公財)人権教育啓発推進センター、県及び県下市町の人権啓発の取組や、兵庫県人権啓発活動ネットワーク協議会等の関係機関、協会の事業に関する情報等]を発信するとともに、県民からの意見や情報をキャッチできる双方向性のあるものにした。

⑤ インターネットバナー広告

インターネットを活用した人権啓発を行うため、神戸新聞社ホームページ(神戸新聞NEXT)にインターネットバナー広告を掲載した。

・「人権週間」の周知、「インターネットによる人権侵害」の啓発

(令和3年12月4日～令和4年1月4日)

⑥ 啓発ポスター

「人権文化をすすめる県民運動」の周知ポスターを作成・掲出した。

(作成枚数) 掲示用(7月) 1,000枚

(配布先等) 市町人権担当部局、神戸地方法務局等の人権ネットワーク関係機関、各県民局等

⑦ 懸垂幕等

「ひろげよう こころのネットワーク」のロゴと、兵庫県人権啓発活動シンボルマークを描いた懸垂幕や横断幕を掲出し、「人権文化をすすめる県民運動」推進強調月間(8月)及び「人権週間」(12月)を告知した。

ア 掲出場所 県庁第一号館、県(総合)庁舎、市町村庁舎および県内商業施設等

イ 掲出箇所 8月 47箇所 75本
12月 17箇所 17本

⑧ 啓発パネル

啓発パネルを県・市町および関係機関・団体に貸し出し、啓発を行った。

⑨ 啓発グッズ

人権啓発グッズとして、紙製ファイル(3,000枚)、4色ボールペン&シャープペンシル(500本)を作成し、人権啓発イベント、研修、のじぎく会館来館者等に配布した。

(8) スポーツチーム等と連携・協力した人権啓発

① 阪神タイガースとの連携・協力

ア 阪神甲子園球場(西宮市)での人権啓発活動

・実施日 令和3年6月2日(水) 阪神 対 オリックス戦 公式戦

・内容 球場内大型液晶ビジョンでの人権啓発映像(法務省作成)の上映
人権啓発グッズ(クリアファイル)の配布

イ 新聞広告等への写真・メッセージ掲載

・新聞広告、人権啓発グッズ(クリアファイル)、ポスター・チラシ、「きずな」への掲載

② INAC 神戸レオネッサとの連携・協力

ア ホームゲームにおける場内大型液晶ビジョンでの人権啓発映像(法務省作成)の上映(3試合)

イ ホームゲームにおける場内LEDフィールドビジョンでの人権啓発メッセージの上映(3試合)

ウ 新聞広告等への写真・メッセージ掲載

・新聞広告、人権啓発グッズ(クリアファイル)、ポスター・チラシ、「きずな」への掲載

※ 「子どもじんけんサッカー教室」は、新型コロナウイルス感染防止のため、中止した。

(9) 人権問題文芸作品「のじぎく文芸賞」の募集

人権問題に関する文芸作品の募集を通して、県民の人権意識の高揚を図るとともに優れた作品を表彰し、「作品集」として市町・関係機関等に配付し、啓発を行った。

令和3年度応募作品内訳

部門	小説	随想	詩	創作童話	応募総数
一般 (高校生以上)	23 編	223 編	124 編	28 編	398 編
学齡児童生徒 (中学生以下)	5 編	1,050 編	222 編	5 編	1,282 編
合計	28 編	1,273 編	346 編	33 編	1,680 編

※過去の応募数(R1:1,714 編、R2:1,614 編)

(10) 人権ユニバーサル事業の実施（ひょうご・ヒューマンフェスティバルと同時開催）

障害のある人、外国人、性的少数者の人権をテーマとして、民間団体等と連携して、参加型・体験型の啓発活動を「ひょうご・ヒューマンフェスティバル 2021 in にしわき」と同時開催で実施した。

① 障害のある人

ア ユニバーサルスポーツ体験

ユニバーサルスポーツ体験を通して、障害者や高齢者などの様々な人と共に生きることの大切さについての理解を深めるため、「ボッチャ体験」「車いすツインバスケットボール体験」「卓球バレー」を実施した。

イ 知的・発達障害擬似体験

知的・発達障害者の気持ちを理解しコミュニケーションの難しさなどを学ぶため、「あいまいな言葉を絵に描いてみよう」等を実施した。

② 外国人

外国人と共生する、多文化共生社会の実現に向けて、日本を含む、様々な国の民族衣装・楽器等の展示、体験等を実施した。

③ 性的少数者

性自認を理由とする偏見や差別をなくすことをめざして、その理解を深めるために、映画「おいしい家族」を上映した。

(11) 大学生等への啓発

障害のある人や外国人への理解を深め、人権意識を高めるための啓発デザインを印刷したダブルクリアファイル(約 5,000 部)を大学生に配布し、啓発した。

配布先 神戸大学、神戸学院大学、兵庫県立大学、関西福祉大学 他

(12) 「ひょうご人権大使」による啓発

① 大使 伊東 浩司 氏

神戸市出身の陸上(短距離)の元オリンピック選手、100m の元日本記録保持者。現在、甲南大学スポーツ・健康科学教育研究センター教授。

② 活動状況

ア 「ひょうご・ヒューマンフェスティバル 2021 in にしわき」開会宣言

イ 「人権のつどい」開会宣言

(13) 人権啓発企画展示の実施

県立のじぎく会館のロビー等において、啓発パネル展を行った。

- ① 令和2年度人権啓発ビデオ「カンパニユラの夢」ハートフルメッセージ展(4月～12月)
- ② 県民運動ポスター展(6月～)
- ③ 「北朝鮮人権侵害問題啓発週間」ポスター展(12月)
- ④ 令和3年度人権啓発ビデオ「夕焼け」ハートフルメッセージ展(12月～)
- ⑤ 令和3年度「人権のつどい」啓発パネル展(12月～)

(14) 市町連絡会議の開催

県・市町との連携強化、相互協力を図り、人権啓発活動を円滑に推進するため市町連絡会議を開催した。

- ① 実施日 令和3年4月(メールによる資料提供・意見集約)
- ② 参加 28市10町(全体数:29市12町)
- ③ 内容 各市町における人権啓発の現状と課題、当協会の事業等

(15) ひょうご人権ネットワーク会議による連携

「ひょうご人権ネットワーク会議」に参加する関係機関・団体と連携し、情報交換やイベントに関する情報の収集・発信を行った。

- ① 「ひょうご人権ネットワーク会議」の開催(令和3年12月2日)
- ② イベント情報の収集・発信(年2回)

(16) 情報・資料の提供

- ① 国・都道府県・市町等の啓発資料を収集し、「ふれあいルーム」で展示した。
- ② ビデオ、パネル、図書の出借を行い、市町・関係団体等の支援を行った。

区分	ビデオ貸出	発行物転載承認	シンボルマーク使用	啓発パネル貸出
R3	258本	51件	2件	4件
R2	303本	45件	2件	2件

3 研究事業

(1) 協会設立30周年記念誌の作成

協会設立10周年(平成13年)20周年(平成23年)に記念誌を作成しており、今年度は30周年を記念し、これまでの人権啓発活動を振り返る記念誌を作成する。

- ① 作成部数 900部
- ② 配布先 県、市町、大学、県立学校等

(2) 人権啓発アドバイザーの活用

学識経験者等をアドバイザーとして委嘱し、ひょうご人権ジャーナル「きずな」の発行やビデオ制作、新聞広告の作成等、啓発事業の実施についての指導・助言を受けた。

- ① 委嘱人数 6名

- ② 専門分野 女性、子ども、高齢者、障害者、同和問題、外国人、インターネット
広報・報道、人権教育、研修等

4 相談事業

(1) 人権相談の実施

専任の相談員を配置し、来館相談、電話や電子メール等により、さまざまな人権に関する相談に応じた(ハラスメント、ドメスティック・バイオレンス、学校・職場での問題発言等)。

また、新型コロナウイルス感染症に関連する差別的扱いや誹謗中傷等の人権問題について、弁護士による無料電話相談(面談は要予約)窓口を開設し、相談に対応した。

(2) 啓発活動についての相談等の実施

市町等が行う啓発活動の手法等についての相談等に応じた。

区分	人権相談	研修啓発活動	その他	合計
R3年度	324 件(170)	68 件	204 件	596 件
R2年度	290 件(187)	91 件	164 件	545 件

※()は、インターネットによる人権侵害相談件数(内書き)

(3) 保有する図書、資料の整理・更新及び情報発信機能の拡充

保有する図書、資料に関する情報をデータベース化し、平成 28 年4月から「ひょうご人権情報バンク」を稼働させ、利用者の利便性を向上させた。

Ⅲ 収益事業

1 県立のじぎく会館の管理運営事業

県の指定管理者として、兵庫県立のじぎく会館の貸室業務や「ふれあいルーム」、「図書資料室」の整備・運営、施設の維持管理などの管理運営を行った。

(1) 会館利用状況

施設名	室数	利用回数(回)		利用人員(人)	
		R3	R2	R3	R2
大ホール	1	124	176	11,910	10,161
大会議室	1	169	205	4,803	5,983
特別会議室	1	68	70	391	194
中会議室	9	1,057	1,210	8,626	9,777
小会議室	4	385	278	1,827	1,968
合計	15	1,803	1,939	27,557	28,083

(2) 図書貸出し

令和3年度 112 冊 (令和2年度 65 冊)

2 人権啓発ビデオ等販売事業

(1) 人権啓発ビデオの制作

住民学習会や各種研修会等で活用できる学習・教材用啓発ビデオとして、「ケアラー～だれもが人権尊重される社会を～」をテーマに「夕焼け」を制作した。

(2) 人権啓発ビデオの販売

人権啓発ビデオの有効な活用を図るため、制作ビデオの販売を業者に委託し、全国で販売をしている。

〈直近3年の年間販売状況〉

令和3年度 354 本、令和2年度 360 本、令和元年度 402 本

〈直近3作品の販売状況〉

制作	R3「夕焼け」	R2「カンパニユラの夢」	R1「サラーマット～あなたの言葉で～」
題材	ケアラー～だれもが人権尊重される社会を～	超高齢化社会とひきこもり(8050 問題)	SNS 時代における外国人の人権
R3販売数	178 本	92 本	33 本
総販売数	178 本	220 本	331 本

(3) 有料駐車場の運用

会館利用者の利便性を確保するとともに、協会事業の充実に資するため、有料駐車場の運用を図る。

IV 管理運営

法人の運営

(1) 評議員会・理事会の開催

協会の運営方針及び内容等を決定し、会務の円滑な推進を図るため、①協会の基本的事項についての意思決定を行う評議員会(評議員 9 名)、②協会の業務執行の意思決定を行う理事会(理事 10 名)を開催した。また、協会事業について専門的立場から審議し提言する企画委員会、専門委員会を開催した。

○ 評議員会・理事会の開催状況

区分	開催日	出席数	議事内容
第 73 回 理事会	令和 3 年 6 月 15 日	7 名 (2 名)	・令和2年度事業報告について ・令和2年度財務諸表について ・企画委員選任について ・専門委員選任について ・第 21 回評議員会の開催について (報告事項) ・理事長及び専務理事の職務遂行状況について ・定款の変更について
第 21 回 評議員会	令和 3 年 6 月 30 日	8 名 (2 名)	・理事の選任について ・令和2年度事業報告について ・令和2年度財務諸表について ・定款の変更について (報告事項) ・みなし決議に関する評議員会決議結果について
第 74 回 理事会	書面決議	—	・令和3年度補正予算について ・令和4年度事業計画について ・令和4年度予算について ・「役員賠償責任保険」契約締結承認について ・第 22回評議員会の開催について
第 22 回 評議員会	書面決議	—	(報告事項) ・令和3年度補正予算について ・令和4年度事業計画について ・令和4年度予算について

開催場所: 県立のじぎく会館

※ ()内は監事の出席数

(2) 企画委員会・専門委員会の開催

○ 企画委員会の開催状況

開催日	出席数	議事内容
令和3年 8月	稟議	・令和3年度事業について ・今後の協会事業の取組について
令和3年 2月	稟議	・令和3年度事業について ・令和4年度事業計画(案)について

○ 専門委員会の開催状況

名称	開催日	出席数	議事内容
研修	令和3年 7月26日	9名	・令和3年度研修部事業について ・各市町実施の人権啓発研修について ・コロナ下における研修について
	令和3年 1月24日	稟議	・令和3年度研修部事業活動報告について ・令和4年度度研修部事業計画(案)について
啓発	令和3年 7月12日	9名	・令和3年度啓発事業について ・人権啓発の課題及び当協会に対する要望について
	令和4年 2月1日	稟議	・令和3年度啓発事業活動報告について ・令和4年度啓発事業計画(案)について ・人権啓発の課題及び当協会への要望等について
研究	令和3年 7月7日	5名	・令和3年度の事業説明 ・研究紀要の活用について
	令和4年 2月	稟議	・令和3年度 研究紀要(30周年記念誌)について ・令和4年度事業計画(案)について

開催場所: 県立のじぎく会館

(3) 情報公開等

協会ホームページ等を通じ、毎年度の事業計画、収支予算、事業報告書及び収支決算書等を公開することにより、協会の経営状況、事業内容等の県民への周知に努めた。

(4) 賛助会員の募集

県民や関係機関・団体に、人権尊重の理念への理解をより深め、協会事業に対する支援をいただくため、賛助会員を広く募集した。

(会員数 170:個人 102、企業・団体 68)